

+ Viva Kango

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学

第二回公開講座開催

二十一世紀への健康づくり

—すこやかな老後をおくるために—

昨年九月、八十一人の地域住民(募集定員六十人)を迎えて、第二回大学公開講座が開催されました。受講生は終始真剣に耳を傾け、活発に質疑応答を交わすなど、全講座を通じて盛会の内に終了しました。

公開講座終了後のアンケート調査結果では、好評に加え、次回開催への熱心な期待や要望も寄せられ、本学の理念である「地域に開かれた大学」に向けて、さらなる歩みを進めることになりました。



第一講 九月五日(水)

血管の病気と生活習慣病

教授 佐久間まこと



死亡率の高い脳卒中や心筋梗塞など血管の病気の原因は、生活様式や食生活と密接に関連しており、特に生活習慣病と言われている糖尿病、高血圧、高脂血症と血管の病気の発症や進行との関連を焦点に多数の症例を紹介、すこやかな老後を迎えるために日常生活での留意点について、予防医学の視点から助言。

第一講 九月十一日(水)

健康のカギをにぎる食生活

講師 西片久美子



食生活の意義を文化的側面から解説し、糖尿病など生活習慣病等の問題を取り上げ、肥満を防ぎ健康を維持するための食生活改善に焦点を当て、何をどのくらい食べると良いのか、四つの食品群間の栄養バランスに配慮した食事の取り方などについて提言。

第二講 九月十九日(水)

排尿のメカニズムと排尿障害

講師 狩野 雅道



正常な排尿と排尿異常の区別について、人体における排尿のしくみか

ら説明し、排尿から自己の健康状態を知る方法や、男女を問わず排尿に関する悩みで最も多い尿失禁について、症状別に詳しく解説。自分でできる適切なケアや治療で軽減しない尿失禁の効果的な対応策も含めて助言。

がんや生活習慣病との関わりについて解説。がんから家族を守る日常生活上の心得について述べ、

第四講 九月二十六日(水)

がん患者を支える家族の役割

講師 沼田 靖子



病院やホスピスで出逢った三人の患者と、患者を支える家族の姿に感動した自己の看護体験を紹介。共に支え合う家族の役割と意義、さらには患者を取り巻く人間関係の大切さについて提唱。

第五講 十月三日(水)

”説明と同意”の時代と高齢者の自立

講師 中村 陽子



今の時代、従来の「お任せ医療」を代表として、理解・納得のできる医療にはいくつもの問題やひずみが生じてきている。これからはもっと積極的に医療に参加し、かつ治療においても自己決定ができる意識が必要で、この生き方こそ現代社会に生きる高齢者に求められているものではないかと問題提起。

いよいよスタート!

3年生領域別看護学実習

二〇一〇年十月一日から三年生の領域別看護学実習が開始されました。この実習は、講義で学んだ理論や知識を実践の場で統合するために必要な専門科目です。成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ(急性期・慢性期)、老人看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、精神保健看護学実習、地域看護学実習の六領域に分かれて行います。実習施設は、北見赤十字病院や小清水・置戸赤十字病院を中心に、特別老人ホーム・保育所・精神障害者共同作業所・訪問看護ステーション等です。そこで、次の方々



にそれぞれの実習で学んだことや成果及び感想などを述べていただきます。

成人看護学
実習を終えて

3年 日野 栄美



私は慢性期の実習で慢性関節リウマチと診断され、教育入院した

Aさんを受け持ちました。私はこの実習でリウマチ体操のポイントをまとめた冊子をAさんと共に作成しました。作成方法は、絵の位置、字の大きさ、構成の仕方、紙の使い方等をAさんに聞いて、Aさんのための冊子を作成しました。そして、冊子を見ながらAさんとリウマチ体操のポイントを復習し、退院後も自分の力で完璧にリウマチ体操を行ってもらえるようにしました。この様な関わりから、私はその人だけにあつた冊子を作成することの難しさや、Aさんと共に、目標を達成するために歩いていく事の大切さを学びました。



小児看護学
実習を終えて

3年 曾根 千晴



私は普段の生活で子供達と接する機会が少なく、子供達との様に

触れ合ったらよいか不安を抱いていました。しかし、保育所・病棟実習が始まり毎日子供達と接していくうちに自然と子供達の中に溶け込む事ができ、自身でも驚くほどでした。実習は記録等で大変な面もありますが、一方で毎日のちよつとした変化を感じたり発見することができ、その変化をと

母性看護学
実習を終えて

3年 大塚 万由子



母性看護学実習では、女性が妊娠・出産を経て育児行動の中から

母親になっていく姿をみる事ができました。その中で、妊娠・出産・産褥は生理的なことであり、健康な女性が快適によりよい健康状態を生活するために援助する必要性

に喜び合うことでその子にとつても自分自身にとつてもとても嬉しく、その喜びが疲れを癒してくれたこともあります。実習を「苦」にばかり捉えるのではなく、毎日の学び・発見を多く持ち、楽しんでいくことで、より充実した実習ができたと思います。

老人看護学
実習を終えて

3年 臼井 蓉子



老人看護学実習で受け持ったBさんとの会話のきっかけとして、

編み物やお手玉等の昔のゲームを行いました。ゲームをしながら、「家族はBさんを施設に入れようとしている」、「Bさんは住み慣れた家に帰りたい」ことを話してくれるようになりました。私は家族と話す機会を設け、在宅サービスについて聞くと、全く知らないことが分かりました。情報を提供しながら話し合った結果、Bさんの望んでいた家での生活を行うことができるとなりました。今回の実習を通して、介護保険を申請しても利用方法が分からない人がいること、本人と家族も含めた退院後の生活を看護していくことの大切さを学びました。

シリーズ③
講座紹介

基礎看護学講座

その2

前回に続きまして、写真後列の4名の教員を紹介いたします。



前列左から:福川助手、松木学長、佐藤講師、教養木助手
後列左から:星助手、二ツ森助教授、休波講師、山本助手

■二ツ森栄子助教授

授業科目は、看護方法学の援助的人間関係論や基礎看護技術など他にも数科目担当しています。研究は、移動動作・体位変換時の援助技術に関するものや自己教育力と教育方略との関連などを中心に進めています。趣味は楽器演奏(ヴァイオリン)ですが現在マンション住まいのため弾けないでいます。他にオペラ・音楽・絵画鑑賞、スポーツ観戦、我が家の庭いじりなどでストレス解消をしています。

■休波茂子講師

看護方法学Ⅱ(看護過程)、看護方法学Ⅲ(ヘルスアセスメント)を担当しています。看護学を学びだしたばかりの1~2年生に看護の方法を教えることに、日々悪戦苦闘しています。趣味は映画・絵画鑑賞、パッチワーク、旅行、料理などです。この何年かは、年に1度のイタリア旅行が一番の楽しみとなっています(美味しい料理・ワイン、素晴らしい美術や建築物、そしてすてきな男性…)。

■山本美紀助手

臨床経験?年で培った看護の技・楽しさ・難しさ、そして魅力を、演習や実習を通して学生の皆さんに伝えたいと思っています。基礎実習では誰よりも一番楽しんでいるという噂の私です。好きなことは、露天風呂に浸かる、デパートの地下を巡る、浴衣で温泉卓球をする、基礎実習で足浴をすること。好きな言葉は「明けられない夜はない、止まない雨はない」です。

■星 理恵助手

話し下手で、コミュニケーション能力を磨いている途中で、紹介するほどのものでもありません。ので、学生の皆さん、話すことがあれば、互いに簡潔明瞭な文章で話したいと考えています。演習後の掃除は、私が担当しています。掃除のモットーは、「使う前より美しく…、整理整頓、チリも積もれば山となる?」。よろしくお祈りします、掃除も私も…。

地域看護学 実習を終えて

3年 松浦 未央子



地域看護学実習では、様々な場面に遭遇することができました。関節の拘縮予防や、身体麻痺のリハビリテーション場面や清拭、排泄、さらには他愛もない会話。どの場面においても、対象者やその家族、看護師の三者間に強い信頼関係が築かれているのがわかりました。講義で言われていた内容を実際に実習を通して理解することができ

ました。それは、机上では知ることができなかった、在宅での様々なサービス、訪問看護を受けている対象者や家族が感じている、在宅で生活することの大切さ”を実感することができ、多くの事を学ぶことができました。

精神保健看護学 実習を終えて

3年 櫻井 美奈



私はこれまで患者さんとかかわりのかかわりなかで、何か良い言葉をか

けることにこだわり、自分が感じたことは表現できない場面が多かった。しかし、指導者の助言やいつも素直な気持ちを表現するCさんとかかわりを通して、私自身が感じたことを抑え込んでCさんと接していることに気がきました。一人の人間としてかわるためには、自分が感じていいることを伝えることも必要だと感じ、その後はCさんの気持ちや反応を考えながら、自分の感じていることを素直に表現できました。自分では気付かなかった欠点・傾向に気付かされ、「看護」とは看護師が何かを一方的に提供するのではなく、自分も成長していけるものだ、改めて実感しました。



国際言語クラブ(ILC)

国際言語クラブ(ILC)です。毎週月曜日に集まり、日本でもよく知られている外国人アーティストの音楽などについて英語で話し合いながら英会話の上達を目指しています。また、北見赤十字病院には毎年六ヶ月単位でイギリスから若いアシスタントの方達が来ていますが、私達のクラブによく遊びに来てくれます。彼女達は日本語が分からないので、英語でコミュニケーションをとりながら自然に楽しく英語を身につけることができます。

今年アンジェラさん(十九歳)とヘレンさん(十八歳)が来ています。クリスマス会にも参加してくれ、とても盛り上がりました。新年会も開く予定。楽しく英語を身につけるにはILCが一番です。

部長 平野 詩織



入試情報

本学の十四年度の入学試験は、従前からの推薦入試（一般入試に加えてセンター入試も導入することになりました）。

昨年の十一月十八日に実施しました推薦入学試験（定員四十五名）は、本学を会場にして受験生七十六名が小論文と面接を受け五十名（倍率二・五倍）の方が合格しました。一般入試（定員四十五名）は、今年の二月二日、本学と札幌会場並

びに東京会場の三カ所で行われ、英語小論文そして選択科目（数学・化学・生物）の中から一科目、計三科目の受験科目に挑みます。また、新たに導入したセンター入試（定員十名）は、英語・国語（近代以降の文章）そして選択科目（数学・化学・生物）の中から一科目、計三科目で本学独自の試験は課しておりません。

合格発表は、一般・センター入試とも二月八日です。

奨学金貸与状況

平成13年12月1日現在、各種奨学金団体等からの奨学金の貸与決定状況は次表のとおりです。

名称	貸与金額	人数			
		1年生	2年生	3年生	
日本赤十字社北海道支部奨学金 (年額120万円はH13.3.31で終了しました)	年額120万円 ※年額60万円	0 29	7 6	11 11	
総合病院北見赤十字病院修学資金	年額60万円	13	27	15	
日本赤十字社看護婦同方会	月額2万円	0	0	1	
北海道看護協会奨学金	月額2万円	0	0	2	
北海道看護職員養成修学資金	月額3.6万円	0	1	1	
地方公共団体(市町村)の奨学金	各市町村により金額異なる	3	3	2	
北海道厚生連奨学金	月額4万円	0	1	1	
内外学生センターたくぎん奨学金	月額3万円	0	0	1	
小笠原アカデミー奨学財団奨学金	月額2.5万円	0	2	0	
日本育英会奨学金	第一種(無利子)自宅通学者	月額5.1万円	3	2	4
	自宅外通学者	月額6.1万円	8	6	6
	きぼう21プラン(有利子)	月額3万円	2	3	3
		月額5万円	6	14	10
		月額8万円	5	9	5
合計	月額10万円	13	12	6	
合計		82	93	79	

※貸与金額は、平成13年12月1日現在の金額です。

前期行事予定

4月 5日	入学式
4月 8日	新入生・在学生ガイダンス
4月 9日	前期授業開始 前期履修登録 (~同19日)
4月30日	臨時休業
5月 1日	日本赤十字社創立記念日
5月 2日	臨時休業
6月14日	臨時休業
6月28日	臨時休業(午後・4年生除く)
6月29日	大学祭(~同30日)
7月 1日	臨時休業(午前・4年生除く)
7月29日	前期授業終了(4年生は、9月30日)
7月30日	夏季休業(~9月13日) (4年生は、8月12日~9月6日)
9月 9日	2年生前期定期試験(~同13日)
9月17日	3年生前期定期試験(~同20日)
9月24日	1年生前期定期試験(~同30日)

オープンキャンパスの開催

昨年の八月一日(水)午後一時から本学を会場にして、平成十三年度オープンキャンパスを開催しました。当日は、高校三年生五十四名を中心として八十二名が参加し、本学の教育理念及び十四年度入試の説明並びにグループに分かれて、施設見学そして最後に個別質問コーナーで入試に関する事等の質問を受けて終了しました。

教員人事

平成十三年十月一日付けの教員人事は、次のとおりです。

【採用】

●母子看護学講座
講師 佐藤 久江

叙勲の受賞

平成十三年「秋の叙勲」で、本学基礎科学講座の芝木秀俊教授が勲三等瑞宝章の榮譽をお受けになりました。今回の受賞は、北見赤十字病院で永年に亘り病院長を務め地域医療に貢献したその功績が認められたものです。心からお祝い申し上げます。

保健師助産師看護法の部改定予案の成立

「保健師」、「助産師」、「看護婦」、及び「准

看護婦等の名称を「保健師」、「助産師」、「看護師」及び「推看護師」に改める等の内容の議員立法による「保健師助産師看護婦法の一部を改正する法律」については、昨年の十二月六日の衆議院本会議にて可決・成立しました。同法は、平成十四年三月一日から施行されます。

図書館情報

本年一月七日から図書館の開館時間を次ぎのとおり変更することになりました。また試験期間中の貸出中止の処置を取止めることにしましたので併せてお知らせします。

●通常の開館時間
午前十時~午後八時

●夏季・冬季・春季休業期間の開館時間
午前十時~午後五時四十分

学生の皆さんへの注意

昨年の暮れ、北見警察署から本学の近辺で夜間に不審者(車)が出現しているとの情報がありました。警察でも、見回りを強化することでしたが、学生の皆さんも、通学時(特に帰路)や、一人暮らしの方は、次の点に注意して下さい。

また警備員室に貸出用の防犯ベルを用意してありますので、止むなく夜間に帰宅する学生は、ご利用下さい。

一 出来る限り早い時間に帰宅するようにして下さい。

二 止むなく夜間に帰宅する場合は、必ず複数で帰宅するようにし、一人では、帰宅しないようにして下さい。

三 アパートでは、必ず施錠し、内側のチェーンを掛けるようにして下さい。ドアを開ける時は、必ず相手を確認してから開けるようにして下さい。

四 万が一被害に遭った時は、大声を上げて助けを求めるか、近くの民家に駆け込むようにして下さい。また、出来るだけ、相手の特徴、車種、車色、車番等を記憶するようにして下さい。

編集後記

★学内誌をお届けします。今回の特集では領域別看護学実習について三年生の方々にその成果や感想をお聞きしました。また今年度には本学も四半まで揃うことになり大学としても完成年度を迎えることになりました。今後も魅力ある誌面作りを志して参りますので記事、原稿のご協力をお願い致します。

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第6号

発行日/2002年2月8日

編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
Tel.0157-66-3311 Fax.0157-61-3125
mail to:kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp